

2026 年 8 月 21 日

会 社 名 株 式 会 社 ペルセウスプロテオミクス
代 表 者 名 代表取締役社長 執行役員 横川 拓哉
(コード番号 : 4882 東証グロース)
問 合 せ 先 取締役執行役員
管理部長 兼 事業開発部長 棚橋 進
ir@ppmx.com

PPMX-T003 : 大腸がん転移に対するトランスフェリン受容体 1 抗体の前臨床研究に関する**論文発表のお知らせ**

株式会社ペルセウスプロテオミクス（以下、当社）と国立大学法人群馬大学との共同研究『固形がんモデルにおけるがん特異的抗体の治療効果の検討』において、当社が開発中の抗トランスフェリン受容体 1（TfR1）抗体 PPMX-T003 に関する研究成果が、このたび学術誌『Signal Transduction and Targeted Therapy』にオンライン掲載されましたので、お知らせいたします。

遠隔転移が大腸がんの主な死亡原因であり、有効な標的療法が求められています。本研究は、大腸がんを高発現し、細胞内への鉄の取り込みに重要な役割を果たす TfR 1 が有望な治療標的であることを、TfR 1 を特異的に認識する抗体 PPMX-T003（以下、本薬）を用いて初めて示したものです。

本研究では、患者由来の大腸がんをマウスに移植したモデルにおいて本薬を投与したところ、がんの成長を抑えられました。さらに、大腸がんの「肝臓への転移」に対しても、本薬がその発生を防ぐことを確認しました。また、胃がんでも検証を行い、お腹全体にがんが散らばる状態である「腹膜播種」に対しても、同様に本薬がその発生を防ぐことを確認しました。加えて、胃がんの腹膜播種状態であるマウスに本薬を繰り返し投与することで、生存期間が大幅に延びる結果も得られました。

これらの結果は、TfR 1 が大腸がんおよび胃がんにおける治療標的となり得る前臨床的知見であり、PPMX-T003 が原発巣の増殖抑制に加え、転移や播種の予防につながる可能性を示すものです。

【論文情報】

タイトル : 「Clinical-stage human anti-transferrin receptor antibody suppresses colorectal cancer metastasis」

邦訳 : 臨床段階にあるヒト抗トランスフェリン受容体抗体は、大腸がんの転移を抑制する

掲載誌 : Signal Transduction and Targeted Therapy

著 者 : 遠藤 瑞貴¹⁾、白石 卓也¹⁾、横堀 武彦²⁾、佐伯 浩司¹⁾、調 憲³⁾、松浦 正⁴⁾、他

1) 群馬大学大学院医学系研究科総合外科学講座 消化管外科

2) 群馬大学統合腫瘍学研究部門 未来先端研究機構 遺伝子治療学研究部門

3) 群馬大学大学院医学系研究科総合外科学講座 肝胆膵外科

4) 株式会社ペルセウスプロテオミクス

掲載日 : 2026 年 8 月 20 日（オンラインにて公開）

URL : <https://doi.org/10.1038/s41392-026-02917-9>

以上